



健康長寿おきなわ復活や新
型インフルエンザ対策等の課
題において、県医師会の協力
をよろしくお願いいたします。



沖縄県福祉保健部 健康増進課 課長
系数 公 先生

質問 1. 沖縄県福祉保健部健康増進課課長に就任されてのご感想と今後の抱負をお聞かせいただけますでしょうか。

今年の4月に本庁の福祉保健部健康増進課長を拝命し、それまで3年間赴任していた石垣島(八重山福祉保健所)から異動してきました。公衆衛生医師としてのキャリアは17年目となりますが大半は保健所勤務で、本庁は平成19年から21年までの結核感染症班長(新型インフルエンザ対策専任チーム)以来2度目となります。

現在、健康増進課は健康づくり班、結核感染症班、母子保健班の3班で構成され、健康づくり班では健康増進計画(健康おきなわ21)の策定と推進、がん検診やがん登録事業、結核感染症班では新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく行動計画策定、HIV/エイズ対策、母子保健班では周産期医療提供体制の整備や子ども医療費自動償還制度導入など、医師会に関係する事業を多く所管しています。県全体の施策に関わるポジションなので重圧は大きいですが、関係機関とも連携してひとつひとつ事業を進めていこうと思います。

質問 2. 健康長寿沖縄復活に向け、「健康おきなわ21」計画に基づき様々な事業を推進されておりますが、現状と課題を教えてくださいませんか。

平成22年の都道府県別生命表によると、本県の平均寿命(0歳の平均余命)は男性79.40歳、

女性87.02歳と平成17年に比べて伸びてはいるものの、その伸び幅は男女とも全国平均を下回ったため、男性が30位、女性が3位と全国順位を落しました。その要因としては20~64歳の年齢調整死亡率が全国平均を上回っており、主要死因別では、脳出血、心筋梗塞、慢性肝疾患・肝硬変、自殺が男女とも全国平均を上回ることが挙げられます。沖縄県では26ショックと叫ばれた平成14年より、健康おきなわ2010、健康おきなわ21を推進してきましたが、上記の死亡率の改善には結びついていない状況です。課題としては、20~64歳のいわゆる働く世代の健康指標の改善と、県民全体の健康意識の向上が挙げられ、特に、多量飲酒による県民への健康負荷については今後取り組みを強化すべき課題と考えています。

質問 3. この度、健康長寿おきなわ復活推進本部が発足されましたが、福祉保健部として今後の展開や目指すところ等をお聞かせいただけますでしょうか。

これまでの福祉保健部を中心とした取り組みだけでは十分な成果が得られないとして、今年度9月に知事を本部長とする健康長寿おきなわ復活推進本部を立ち上げました。県庁内各部局を網羅する横断的な組織で、各部局が行っている施策のうち、「栄養バランスのよい食事」「運動しやすい日常環境」「一人ひとりの健康管理支援」という3つの柱に資する事業があれば、

推進本部で承認し優先的に事業推進できるようなくみを検討しています。これによって、例えば農林水産部が県民の野菜摂取増加につながるような事業を展開したり、土木建築部がウォーキングやジョギングしやすい歩道や公園の整備を行うようになる等、健康づくりに関する社会環境整備が県庁全体で進むことを期待しています。

また、経済団体や保健医療関係団体、市町村などからなる県民会議を設置し、健康長寿おきなわ復活について機運を高めるとともに、事業所における健康づくりを進めることを呼びかけていきます。今後の展開としては、健康長寿おきなわ復活に向けた体制整備や事業の「種まき」を行って、まずは長寿陥落傾向に歯止めをかけたいと考えています。そして、その後の長期にわたる取り組みは、「政党が党勢を拡大していくようなイメージ」で進めていきたいと考えています。

質問 4. 県医師会に対するご意見、ご要望がありましたらお聞かせください。

2009年に全国に先駆けて沖縄県内で新型インフルエンザが流行した際に、県と県医師会は連携して医療体制の維持や、感染拡大防止に関する対策を実施しました。当時の担当にとっては、県医師会が大変心強い存在でした。いくつかの対策が感染をコントロールすることにつながったということで、それらはその後流行した全国の対策にも生かされました。今後の新型インフルエンザ対策においても、地区医師会、県立病院、保健所を中心とした地域ネットワークを基本に医療体制を構築していきますので、ご協力をお願いいたします。感染症以外の分野でも、さまざまな施策を展開していく上で、医師会とは常に連携をとらせて頂きたいと考えてい

ます。特に、健康長寿復活に関しては、県の政策参与の玉城信光先生からもアドバイスを頂いていますので、施策化する際の参考にさせていただきます。

質問 5. 糸数課長の座右の銘、日頃の健康法やご趣味などをお聞かせ下さい。

仕事で県民に健康づくりを呼びかける立場上、若い頃からの不健康な生活習慣な部分を改める必要があると自覚し、40代半ばで石垣島に単身赴任したことをきっかけに生活習慣を見直しました。まず、夕食の量を減らして空腹感に慣れ、レコーディングダイエット（毎日体重を測って折れ線グラフを書くだけ）を実施しました。さらに友人の勧めもあってランニングを始め、これで体重を7キロ落としました。月間走行距離100kmを目標に、平日の朝や週末などに走りこみ、ついにフルマラソンが完走できるまでになりました（3時間51分）。あとは中学時代から続けている卓球は、時々練習に参加して、相手とのラリーを楽しんでいます。また、20年前に竹富町の小浜診療所勤務時代に購入したサンシンを、3年前から八重山古典民謡保存会研究所に通って練習し、羽織袴姿でコンクールにも出場し、無事に新人賞、優秀賞をゲットしました。沖縄に戻ってきてからはなかなか時間がとれなくなりましたが、退庁後に、仲間と県庁近くのカラオケルームで歌三線の練習をしたりしています。あとは仕事に関連して検索した資料や履歴を残すために、公衆衛生関係のブログ ooyake を10年前から書き綴っています (<http://itokazu.cocolog-nifty.com/ooyake>)。

この度はお忙しい中、ご回答頂きまして、誠に有難うございました。

インタビューアー 広報委員 本竹 秀光